

式 辞

おはようございます。

入学式で360名の新入生を迎え、今日から平成31年度が始まります。松蔭高校79年目です。

年度の始めにあたり、三つの話をします。

一つ目は、校訓「磨く・拓く・翔（はばた）く」についてです。

校訓は、短いフレーズなので、いつまでも記憶・心に残りますし、一人一人が自分なりにその意味を考える自由があります。

私が、松蔭高校の校訓から感じたことを紹介します。

まず、「磨く」。

一人一人が向上心をもって努力する大切さはもちろんですが、「切磋琢磨」という言葉があるように、お互いが刺激し合って共に成長してゆくことの大切さが込められているように感じました。

「拓く」。

新しい道を切り拓く、つまり挑戦する気概を持つこと、また行く手を阻む障害を切り拓いて前に進む逞しさを感じました。

「翔く」は、新しい広い世界への飛躍、若者が海外へ飛び立ち活躍することなどをイメージしました。

皆さんは何を感じるでしょうか。

校訓は松蔭生への思いが込められた言葉です。校訓を胸にそれぞれ充実した1年間を過ごしてください。私もこの校訓を大事にしたいと思います。

二つ目は、アップルの創業者スティーブ・ジョブズのスタンフォード大学卒業式でのスピーチ「ステイ・ハングリ、ステイ・フォーリッシュ」です。これは昨日の入学式で来賓の方と私とが偶然にもそれぞれ式辞と祝辞で引用しました。色んな人がやっぱりいいと感じるんだと改めて思いましたので、2、3年生にも紹介します。

ジョブズは、「自分が今やっていることが将来どのように役立つのか、どのようにつながっていくのかは、今の時点ではわからない」という話をします。例えば皆さんが今している勉強や部活動は、高校生活の中で結果が出ることはもちろんあります。けれども、その時はわからなくても、10年後、20年後に振り返って、ようやく、その努力の意味に気付くこともある、ということです。

ジョブズが言いたいことは「今我々にできることは、いつか実を結ぶことを信じて、目の前のことに一つ一つに真剣に、大切に取組むことだ」ということでしょう。今はピンとこないかもしれませんが、心に留めておいて欲しいと思います。

なおインターネット上で全文の英語原文、日本語翻訳を見られます。

最後は今年度から始まる65分授業についてです。

大学の90分授業に進む上での橋渡しとしても、65分授業は皆さんにプラスになると思います。65分間集中して授業を聞くことで、より長い思考をする力を身に付けることもできます。

65分授業を楽しむ気持ちで、これまでより一層授業に集中しましょう。

今年1年皆さんが元気に過ごし、松蔭高校に活気溢れることを願って式辞とします。